～ ここにも活かせるエルメス技術 ～

ELMES

LNGタンク基礎の挿入式水平傾斜計の測定方法について

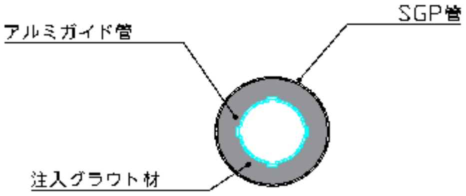
	山岳トンネル／地下構造		シールドトンネル		地盤／山留め		基礎／ケーソン
	近接施工		斜面防災		コンクリート構造		ダム・メンテナンス
	鉄道関連		道路関連		橋梁関連	○	エネルギー関連

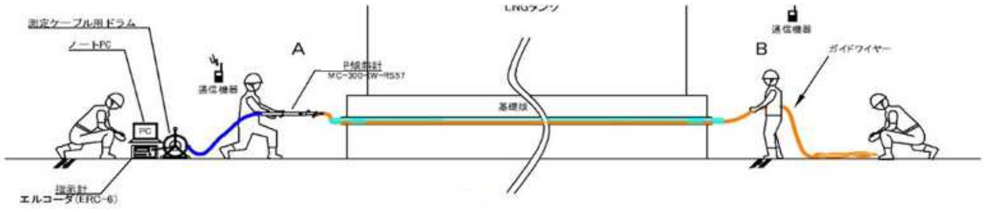
◆ 概要

LNGタンクの基礎の沈下計測に挿入式水平傾斜計が用いられます。過去の計測実績として、直径100mのタンク基礎が挙げられます。直径100mになると、自動計測では多大な費用が掛かることになるので、手動型の挿入式傾斜計を推奨します。

◆ 計測方法

予めタンク基礎にSGP管を仕込み、アルミ製の測定管を通します。その後、隙間をモルタルで充填します。測定は、タンク両側に配置した人員が無線で連絡を取り合い、挿入式傾斜計の接続したガイドワイヤを引張り、測定管内を一定ピッチで測定します。





外観図（写真）

◆静電容量型挿入式水平傾斜計
型式：MC-300IW-RS57
測定範囲：±300分
許容温度範囲：-10～70℃
寸法：φ30mm×H450mm

お問い合わせ		
	東横エルメス　計測技術部	ＴＥＬ（03）5829-6088
ISO9001	東横エルメス　営業部	ＴＥＬ（03）5829-6088